



発行日=2001年10月25日 発行人=面出薫 編集=田沼彩子・早川亜紀
照明探偵団・事務局 〒150-0001 東京都渋谷区神宮前5-28-10 ライティングプランナーズアソシエーツ内(田沼彩子)
TEL: 03-5469-1022 FAX: 03-5469-1023 e-mail=tanteidan@lighting.co.jp http://www.lighting.co.jp/tanteidan/

照明探偵団通信

vol.11 Shomei Tanteidan Tsu-shin

海外調査レポート
～ロンドン最新建築事情～

こうべ照明探偵活動レポート
こうべ照明百選

海外の照明事務所で働く

面出の探偵ノート

照明探偵団倶楽部活動1
街歩き報告(横浜みなとみらい)
照明探偵団倶楽部活動2
研究会サロン報告

照明探偵団日記



大英博物館 グレートコート

ロンドン最新建築事情 [イギリス・ロンドン]

NY ワールドトレードセンターのテロの悲劇から戦争へと緊張が高まるさなか、危険を承知でロンドン探偵を決行。かなり意を決して空に飛び出したものの、何事もなく無事到着。東京で想像していたピリピリとした緊張感はなく、東京から連れてきた騒がしい心はそれで落ち着いた。

探偵の調査目的は都市照明が多いけれど、今回はちょっと趣を変えて建築照明が主題である。ロンドンでは豊かな歴史を背景とした伝統的な美しい建物が織りなす街路空間の中に、所々スチールやガラスで構成された現代建築が対照的に挿入されている面白い表情がある。ノーマン・フォスターやリチャード・ロジャースなど世界的な現代建築家を多数輩出している粋な街だ。

●偉大なる大英博物館グレート・コート

イギリスでは2000年を記念にミレニアム・プロジェクトとして全土に新築・改築工事を展開している。後述のミレニアムブリッジやテート・モダンと同じく、大英博物館も大改修プロジェクトがコンペをスタートに行われた。コンペを勝ったのがイギリス No.1 の建築家、”サー”ノーマン・フォスターで、雨ざらしであった中庭に大きなガラスの天蓋をかけ、動線の核となる大きなオープンスペース（＝グレート・コート）を提供する案である。ツタンカーメンがやって来た10年ほど前に訪れたことがあるけど、さてどれほど劇的に変化したのだろうか。

薄暗いエントランスホールで館内マップを購入し正面を見ると、真っ白に輝く曲面の壁が強烈に飛び込んでくる。天蓋の中央で象徴的に扱われている図書室の壁面だ。白い光に誘われふらふらと足を進めれば、改修の目玉のグレート・コートにすぐに出ることができる。

四方の展示室へのアプローチからなる矩形平面の中央に、円形平面の図書室があり、口から〇へ見事な複曲面のラチス



壁面におちたトラスの影

トラスのガラスのドームが覆っている。ガラスは紫外線を60%カットするクリアのペアガラスからなり、ガラスを透かして空も見えるし、流れる雲も見える。定かでないが、ドットプリントなどでうまく減光し、見ても眩しくないように空の輝度を調整しているようだ。幸運にも館内にいる間に晴→曇→大雨と天気が変わり、空も存分に鑑賞させようという設計者の意図を心行くまで感じる事が出来た。当然帰りはずぶぬれだ。

フォスター卿が描いたドームのフォルムは秀逸で、どこから見てもトラスの疎と密のコントラストが美しく現れる。自然光はペアガラスを透過してやや青味がかかった光になるものの、晴れの時の陽射



グレートコート

しとトラスの影の競演と、曇りの時のなんともいえないルーズなモワモワ感はともに新鮮な感動を呼ぶ。グレート・コートを取り巻く既存の展示室は、外光が抑えられた閉鎖的な空間の連続であり、グレート・コートと各展示室を行ったり来たりする時の光のシークエンスも楽しい。

さて、いいことづくめのグレート・コートだが、残念な点が1つあった。図書室の曲壁に沿うように大階段を昇った先に、驚くほど細いテンションで吊られた膜天井をもつレストランがあるのだが、そのBENTO（弁当）はひどく不味い。おかゆの海苔巻と、炊けてないご飯はどうにかならないものか。これで2千円也。

●テート・モダン＝ライト・モダン？！

セント・ポール寺院からテムズ川を越えた対岸に、火力発電所を改修して作られた現代アート美術館「テート・モダン」がある。もとの火力発電所の外観とレンガの素材を残しつつ、対比をなすように現代的なテイストの展示ボックスが挿入された改修計画だ。

内部の光は、改修の狙いである新旧のデザインの対比を鋭く強調するかのよう、蛍光灯の直接的な表現によって支配されてい

た。ブルー蛍光灯の光とプロジェクションの光に満たされたエントランスや、サイン的な蛍光灯の直線、そしてシャープなラインを携えたエスカレーターの上下動線が空間にスパイスを与えている。がらんだりの巨大なヴォイドであるエントランス・ロビーは、発電所時代の工場を思わせる質感だが、そこに発光する現代的な発光するボリュームが面して浮かべられていて強烈な対話を見せる。

日本のせんだいメディア・テークで表現された光と同じく、直接的な表現と発光する表現が現在の世界の潮流であることは間違いないようだ。確かに何かを照らして光を見せること、また建築に照明器具を隠していく思想はすでに広まった常識であり、テート・モダンでの光のスパイスの効いた表現はまさしく「現代」のように感じられる。

ただ、だしの利いていない蕎麦を七味唐辛子で食べているような、なこか誤魔化されているような疑念が常について回った。その疑念の正体を明らかにしていくことが、今後の光のデザイナーに問われているのだろう。

1つ悲しいお知らせが…じつはテートモダンからセント・ポール寺院に向かって、フォスター卿デザインのミレニアムブリッジが開通したのだが、構造的な欠陥が見つかり現在改修中。華々しくデビューしただけに悲壮感が漂っていた。



左：ブルーの光で満ちたエントランス
右：ラインの美しいエスカレーター

●これぞガラスマジック

ここで、小粒ながら照明の観点から興味深い建築があるので紹介したい。地下鉄のホルボーン駅からすぐの交差点の角に建つホルボーン・プレイスはフォスター卿のデザインによる柔らかなカーブを描くガラスに包まれたオフィスビルである。

日中はガラス面に大空を映し込んで周囲に溶け込む表情を見せるが、夜間になると表面をくむガラスのファサードの存在感は消えてなくなり、内部の扇の形に穿たれたヴォイドの形が闇に浮かび上がる。執務階ではベースライトの光がブラインドを柔らかく発光させ、交差点の角にあるこの建物を都市の行灯へと変貌させている。反射制御にこだわった照明器具を使用しているために、外から見て余計な輝度を感じさせることはなく大変美しい。

ガラス建築による昼夜の表情の変化は、ルーブル美術館のピラミッドなどお馴染みだけれど、単なるオフィスビルが都市に劇的な光のアクセントを加えていることに驚かされた。日本でもガラスを全面に使用したオフィスビルが次々と発表される今日この頃だけど、ぎらぎらした光じゃなくて疲れを癒してくれるような優しい光はいつ登場するのだろうか。



上：昼のホルボーン・プレイス
下：夜のホルボーン・プレイス

●その他の光のオススメポイント

ロンドンはその高貴な感性から生まれた優れた建築が実に多く、新旧合わせれば最低一ヶ月は建築三昧を楽しめる。さらにミレニアム・プロジェクトの機運によって現代建築が競って完成してきており、テムズ川を中心とした景色の美しさとともに豪華な建築博覧会の様相を見せている。光のテーマも同時に沢山あって、昼夜市内を散歩しているだけでも興味を引くものはゴロゴロ。その中から光や照明といった観点から現代建築のオススメを4つ紹介する。

[ロンドン・アイ]

ミレニアム・プロジェクトの一環としてテムズ川に面して設立された観覧車である。高さ315m・定員800人のビッグなスケールもさながら、テムズ川の上で観覧車が回るように片持の構造で支えていることが不思議でたまらない。さらに観覧車自体が自転車の車輪の様に非常に細いケーブルで結ばれているものだから、遠目には輪が浮かんでいるように見えて極限の機能美を見せてくれる。観覧車の籠は風力計算から導かれた卵形の形をしていて非常にユニークである。まさしくハイテクの塊。



市内で3番目に高い構造物でロケーションも抜群だから、さぞかし美しいロンドンの夜景を拝めるだろうと期待していたものの、丁度前日から終わりの時間が早くなったとかで轟沈・・・最終メンテナンスのために嫌味たっぷりに回る観覧車を見ていたが、白い光で素直にライトアップされるロンドン・アイのエlegantな姿は、日本でのどこも同じ商業的な光とは全く趣が違う。日本の観覧車もそれはそれで嫌いではないけれど、文化と感性の違いをまざまざと見せつけられてしまった。

なお乗り場は夜になるとブルーの光に染められ、ロマンチックな雰囲気を演出している。負け惜しみではないが、ロンドン・アイのふもとの夜景もなかなか雰囲気があってなかなか良かった。



[ロイズビル, 大和ヨーロッパビル]

フォスター卿と並んでイギリスを代表する建築家がリチャード・ロジャースである。「ハイテク建築」で有名な彼の建築は市内に多くあり、夜景として重要なビルも幾つか残している。

1986年に建てられたロイズビルは15年経った今も変わらず強烈な存在感を示してくれる。金属の鎧と裸の設備ユニットに身を包んだロボットのようなボディは、ブルーの光で暴力的にライトアップされ、円形からのアイキャッチになるほど異彩な輝き方をしている。夜中でも頂上の排気塔からは煙が出ているし、まるでSFの世界に入ってしまったかのような錯覚を起こさせる。

セント・ポール寺院の北側には大和ヨーロッパビルがある。ロイズに比べてガラスを主体とした軽やかな最近の作風の建築で、2本のクリアなガラスのケースに収められたエレベーターシャフトが特徴である。このエレベーターシャフトは、中央の換気パイプに設けられた蛍光灯によって天井面が明るく照らされ、それがタワー状に積層して夜間の美しい光の柱となる。内部の照明の機能と外観照明を見事に合理的にまとめた模範生である。

[サクラー・ギャラリー]

ピカデリーサーカスの側に、ロイヤル・アカデミーという由緒ある芸術空間がある。ロイヤル・アカデミーはバーリントンハウスと背後の展示棟からなるが、フォスター卿はその間の幅5mの深い光庭を魅力あるギャラリースペースへと昇華させた。歴史を感じさせる古い壁面に挟まれながら、専用のシースルーエレベーターでじっくり上昇すると、真っ白なフロストガラスに包まれた美しい彫刻が迎えてくれる。

幅わずか5mの彫刻ギャラリーは、竹を割ったように鑑賞者スペースと彫刻群が直線的に配された、極めてシンプルな構成をとっている。空間表現もそれに倣い彫刻のまわりをフロストガラスが覆う。このフロストガラスの透過具合がなんとも絶妙だ。太陽の光は曇りでも思いのほか強いものだが、緻密な検証からはじき出されたガラスの透過率が、美しい輝度と透明感で美白空間へと導いている。大英博物館のグレート・コートといい、フォスター卿は自然光を実に美味しく料理する。

私が訪ねたときは模様替え中で、ダンボール箱に埋もれての鑑賞だった。あと自然光に満たされたギャラリーであるためにサウナのようなようだった。皆様、是非展示期間中に行こう。

さて、ここまで駆け足で



他にも地下鉄ジュビリー線の新駅プロジェクトやドックランド再開発(ミレニアム・ドームもその1つ)など非常に多くの興味深い建築が次々と誕生している。ロンドンの新しい建築に共通するのは、それぞれが個性を表現する光を身につけていることだ。その新しく個性的な光が歴史的な街並みの中にバランスよく配され、図と地のような光の模様を描いている。ミレニアムを迎えて現代的な建築と光が新鮮に表現された今、ロンドンは新旧のコントラストが最も美しい時期を迎えているように思う。今がロンドンの食べ頃だ。

(戸恒 浩人)

こうべ照明探偵活動レポート

日本全国から照明探偵団事務局に寄せられる、”私も照明探偵活動やってます！！”という声。今回は神戸で照明探偵活動を行っている方々からの活動の紹介です。

1. こうべの照明探偵活動とは？

阪神淡路大震災（H7.1.17）で甚大な被害を受けて全国・世界の注目を浴びた神戸。つらい被災体験をきっかけに、人々の助け合いやまちづくりへの大切さを多くの市民があらためて実感しました。その中で、「光」をテーマに、心の元気付けや癒しなどを求めて、神戸市役所の声かけでスタートしたのがこうべの照明探偵活動です。H12.7.7に結団式を行ったのが最初の活動で、団員数は約100を数えます。会の名称はH13.10現在、「こうべ照明探偵団（仮称）」ですが、改定する方向で検討中です。

2. これまでの活動内容

夜景ウォッチングはもちろんのこと、市の主催する神戸21世紀復興記念事業（震災後6年が経過し21世紀を迎えた記念）の各種イベントとのタイアップや、団員の発案による独自活動などが主な活動です。

(1) 夜景ウォッチング：三宮・元町、秋の京都、新長田商店街など

(2) 参加イベント：

- ・夜景百選マップ作成（現地取材や写真撮影は団員が行う）
- ・相楽園（日本庭園）の夜間ライトアップ（ランプシェード製作）
- ・各種夏祭りでの照明演出、手作り行灯屋出店など

(3) 独自企画等：

- ・X知as手作りイルミネーション（神戸市役所玄関前に100灯設置）
- ・桜ライトアップ兼お花見会（夙川沿いにて）
- ・日本の灯りを創る会（和紙や竹を使ったランプシェード製作）



相楽園夜間ライトアップ、和紙の部分は絵手紙（絵手紙灯）

3. これからの活動内容

市主催の記念事業はH13.9末で終了しますが、過去1年の活動経験を無駄に終わらせたくない！という声が多く、団員から寄せられたため、新しい運営体勢について、有志スタッフで活動費用を含めて現在検討しているところです。今の段階では下記のようなことを計画しています。また、今後はさらに積極的な情報発信をおこないつつ活動の場を広げていきたいと考えています。

- ・機関紙発行、HP作成
- ・照明学習会、夜景ウォッチング
- ・「鎮魂の灯り」など、イベント参加
- ・まちづくりや都市景観づくりの企画・提案

4. 今後の抱負など

・10/5のサロンでは「こうべPRタイム」を設けていただきありがとうございました！なお、KOBELUMINARIEの開催は12/12～25です。こちらどうぞよろしく！（河崎・高橋）

・それぞれの生きてきた中で感じる光の経験において、こんな綺麗な瞬間を見た記憶にしまっている人が集まって、美しいものを作り上げられる事に喜びを感じる。それをする事が私のしたいことです（山本）

☆団員&協賛会社、大募集です！

<問合せ先>

078-436-6580（山本、TEL・fax兼）

<掲示板URL>

http://db.zaq.ne.jp/asp/bbs/kcc_dfabk702_1



夏祭りイベントでの行灯屋準備風景

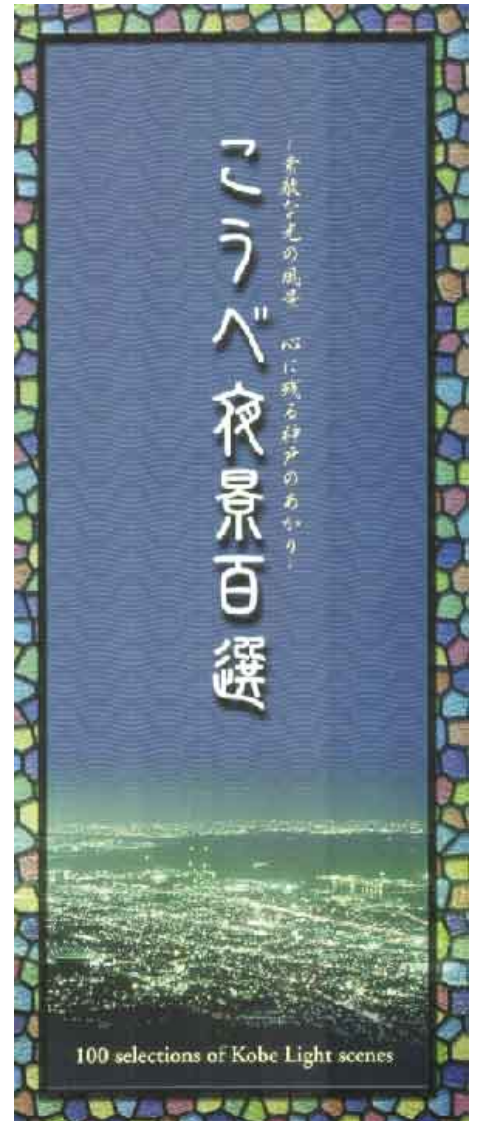


ファンタジア神戸

（小学生制作のペットボトルのオブジェライトアップ）



▲灘・東灘区 /NADA & HIGASHI NADA AREA
▼兵庫区 /HYOGO AREA



こうべ夜景百選
～ 素敵な光の風景
心に残る神戸のあかり～

団員自らによる現地取材と写真撮影を経て
100シーンに凝縮した神戸の夜景スポットマップ。
6つのエリアに渡り、所在地、写真、
推薦者のコメントを記載。
中身の充実したパンフレットです。
(発行：神戸 21 世紀・復興記念事業)

